

第1回 川越市総合教育会議 議事要旨

1 開催日時 平成30年5月16日（水）午前10時00分～午前11時17分

2 開催場所 川越市役所7階 第5委員会室

3 出席者 川越市長 川合善明
教育長 新保正俊、 教育長職務代理者 梶川牧子、
委員 長谷川均、 委員 長井良憲、 委員 黒田弘美

4 会議の概要

1 開会

2 挨拶

平成30年度の第1回川越市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。この会議は首長と教育委員会が教育政策の方向性を共有し、一致して推進するために平成27年に設けられた会議です。これまでも、不登校やいじめの問題等、様々な教育課題について意見交換を行ってきましたが、本日も皆さんと議論を深めながら課題を共有し、児童生徒の教育環境を一緒になって整えていきたいと考えていますのでよろしくをお願いします。

3 協議事項（●…市長 ◎…教育長 ○…教育委員）

(1) コミュニティ・スクールについて

● 今回の協議事項は、大雪で中止となってしまった平成30年1月の会議で取り上げる予定であった内容ですが、まず、協議事項1の「コミュニティ・スクール」の現状と課題について、教育長から説明をお願いします。

◎ よろしくをお願いします。「コミュニティ・スクール」とは、保護者や地域のニーズを反映させるために、地域住民が今まで以上に学校運営に参画できるようにする仕組みを有する学校のことを言います。具体的には、地域住民が学校運営に参加する組織である学校運営協議会を設置し、例えば、保護者の代表、PTAの役員、自治会長、公民館長、民生委員、学識経験者などの方々を学校運営協議会の委員として委嘱します。学校運営協議会には、校長の学校運営方針を承認する権限、学校運営について教育委員会または校長に意見を述べられる権限、教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べられる権限があります。

現在の学校評議員制度では、個別の案件について校長から意見を求められた場合にしか意見を述べることはできませんが、学校運営協議会では、学校運営について直接校長に意見を述べることができます。ただ、教職員の任用に関して教育委員会に意見

を述べることができる権限については課題があるようで、この権限をなくして学校運営協議会を設置している都道府県や市町村もあるようです。

このように、学校運営協議会は、学校運営に関する様々な課題について協議し、校長や教育委員会、保護者や地域の方々に意見を述べたり説明を行うことができる組織です。

現在、学校が抱える課題は複雑化しており、学校と地域の連携や協働の重要性が指摘されています。学校運営協議会を設置し、地域に学校の課題を理解していただき、地域の方も進んで安心して学校に協力できる体制を整えることで、子どもや学校が抱える課題の解決や地域の願いを学校運営に反映していくことが可能となります。また、学校の授業への協力、小中一貫の取組などへの協力を地域の方から頂きやすくなることも期待されます。

課題は、人材確保と教員の負担です。地域には、川越子どもサポート委員会、地域会議、自治会など、多くの地域組織があり、それぞれの組織で委員を併任している方が多くいらっしゃいます。コミュニティ・スクールを新たに立ち上げた場合には、併任されている委員さんの負担が更に重くなってしまうことも考えられます。また、教員の負担になってしまっただけでは意味がありません。他市では、教員の負担が課題になっているということも聞いております。また、学力が向上した市もありますが、学力向上にはあまり関係がないという市もありました。

学校運営協議会の委員は、非常勤特別職として委嘱することから予算が関係してきます。しかしながら、予算をつけずに委嘱を行っている市町村もいくつかあるように聞いております。

最後に、全国や埼玉県の動向です。平成 29 年 4 月時点で、全国では 3,398 校が、埼玉県では 105 校がコミュニティ・スクールを導入しています。埼玉県において、市内全校でコミュニティ・スクールを導入しているのは久喜市と深谷市です。川越市近隣の自治体では、志木市、熊谷市、和光市、川口市、新座市、ふじみ野市が市内の一部の学校で導入しています。努力義務ではありますが、埼玉県では、平成 32 年度末までに 300 校でコミュニティ・スクールを導入することを目標としています。

以上が現状と課題です。

- 教育長から現状と課題について説明を頂きました。私からの質問ですが、学校運営協議会を設置する場合には、現在の学校評議員制度を学校運営協議会に移行するという方向で考えているのですか。
- ◎ 学校評議員制度に人材を加えて、学校運営協議会として活用することを視野に入れています。
- 分かりました。それでは、委員の皆さんから御発言をお願いいたします。
- 私達が子どもの頃は地域と子ども達が非常に密着していましたが、最近では、共働き世帯が増えて地域と家庭の関係がとても希薄になっており、子どもが取り残されているような印象を強く感じています。従って、地域の方達が子育てを共にしようという考え方やコミュニティ・スクールの目指すところは大変有効であると思います。

しかし、既に様々な地域サポート事業がありますし、いじめに対しても細やかな会議が設けられたので、これらの事業や会議体とコミュニティ・スクールとの棲み分けを考えていく必要があると思います。また、先生方の負担が増えてしまわないだろうかという心配や、学校運営協議会の委員さんには、学校に対して理解がある方になっていただかないと、協議会がうまく回らず、様々な問題が起きるのではないかと危惧しています。コミュニティ・スクールが形骸化していくのも困りますので、時間をかけて校長先生や地域の方が協力的な地区を選んで、パイロット的に事業を進めてみるのもいいのではないかと考えています。

- 私のコミュニティ・スクールのイメージは、心身共に健康な児童生徒を育てるには学校や教師だけでは限界があり、学校を地域に開くことで地域社会の人材や地域の協力を生かして学校教育の充実を図るということが一番の目的だと思っています。また、保護者や地域住民にとっても、生涯学習の場として学校が共に学ぶ場であることが望ましいとも考えています。これから少子高齢化社会を迎える中で、高齢者の生きがいややりがいを創造する場所としても、学校の果たす役割はきっと大きいだろうと思います。

現在、川越市では、子どもサポート事業などで遊び支援は積極的に行われていますが、本来の学習支援があまり行われていないように思います。例えば、日本の古典落語が教材の中に取り上げられた時に、その教材だけで学ぶのではなく、もし地域に落語家や落語に興味を持っている方達がいれば、学校の授業にお呼びして古典落語を披露して頂き、子ども達の古典落語に対する興味関心を深めるきっかけを作ることなどが考えられます。一番大事なことは、子どもが自分のやりたいことを見つけて、目標に向かって挑戦していく姿を学んでいくことだと思います。

ただそうは言いますが、コミュニティ・スクールを完全に実施するのは相当難しいんだらうと思いますし、時間もかかるんだらうと思います。ですから、例えば、今、学校の運動会は地域の人をお招きしてやっているわけですが、お招きするのではなく、運動会の企画段階から地域の方に入ってもらって共に企画を行い、その中で、地域と子ども達の共通する興味とか、参加種目などを増やししながら、地域と子ども達との接点を密にしていくというのも一つだと思います。また、コミュニティ・スクールの中に学校施設の開放がありますが、安全面の問題などでなかなか施設内の開放が難しい場合には、畑や花壇のような自然観察園などを利用して地域の人と子ども達が触れあっていくようなことから始めていくと、それが最終的にコミュニティ・スクールの形につながっていくのではないかと考えています。

最後に、コミュニティ・スクールをやる場合には、学校と地域を結ぶコーディネーターが絶対に必要だと思いますので、まずは、コーディネーターを配置していくのも一つの方法だと思います。

- 私は、地域活動が盛んな千葉県の小学校を数年前に見学したことがあります。その地域は団地が多く、定年退職された高齢者が多い地域で、増加した空き教室の一部を地域のコミュニティの場として学校が提供するようになったということです。その空き教室で、放課後に地域の達人が生徒に何かを作ったり教えたりしてしまし

た。地域活動の環境が整っており、見守りがよくできており、いじめなどがないような学校でした。

ただ、課題もあるようでして、地域活動に熱心な先生が異動されると、後任の先生の負担が大きくなってしまい、引き継ぎが大変であるということも聞きました。このような点にうまく気をつけてコミュニティ・スクールを行えば、子どもが巻き込まれる事件なども地域でなくなっていくのではないかと考えています。

- 私も千葉県の小学校に行かせて頂きました。セキュリティの問題はありますが、学校の空き教室で色々なことができることは、とても良い環境が整っていると思いました。また、地域組織における委員の併任の件については、私自身も実際に地域組織の委員をやって、併任されている委員さんが非常に多いように感じました。

地域の方がコミュニティ・スクールとはじめて聞いた時に、分かる方もいらっしゃると思いますが、分からない方もかなり多いのではないかと思います。コミュニティ・スクールをスタートするにあたっては、コミュニティ・スクールがどういうもので、既存の組織とどう違うのかなどを地域の方によく理解してもらうことが一番大切なことではないかと思います。

学校評議員制度を学校運営協議会にうまく移行していければという話もありましたが、最終的には、地域の方からコミュニティ・スクールはいいねと言ってもらえ、地域の方から積極的に参加してもらえるような組織になっていければと思います。また、この学校運営協議会では、従来の地域組織のようにトップの方の考えを受けて、各委員さんがその考えを実現するための意見を言うという形ではなく、委員のメンバー全員が色々な提案を行えるような雰囲気づくりをしていければいいのかなとも思います。

- 一通り皆さんから御意見を頂きました。地域の方に学校運営に関わってもらおうということですが、時間的な制約から関って頂く地域の方の年齢層や意見に偏りが生じてしまうような気もしますが、既にコミュニティ・スクールを実施している市での問題意識や課題などは把握していますか。
- ◎ 現時点では把握しておりませんが、一例として、非常に多くの意見を学校に提言される方が地域にいらっしゃって、その方を学校運営協議会のメンバーに参加していただいたところ、うまく協議会が運営されているという話はお聞きしました。
- 一つは、開催時間の問題があると思います。学校評議員なども、平日の昼間に開催されることが多いので、日中に働いている方は参加できません。どうしても高齢者に偏ってしまう傾向があると思います。実際、若い方でも学校に関わってみたいという方もいらっしゃるので、夕方や土日に会議を開催するなどの工夫を行えば、興味をもたれている方は参加してくるのではないかと思います。
- ただ、小学校の先生方には、土日に出ることをあまり好ましく思ってもらえないという現状もあります。中学校は部活があるので、土曜日でも先生が学校にいらっしゃることも多いように思うのですが。
- そうですね。先生にとっては勤務時間外の活動になってしまいますね。

◎ コミュニティ・スクールを市内全域で行っている深谷市の話では、地区によって温度差があることや、学校、家庭、地域の役割分担が不明確であることが課題となっているようです。また、月1回開催する学校運営協議会の他に、小会議を月数回開催しているので、勤務時間外に行われる会議への出席が教員の負担になっているということや集まる方もなかなか時間をつくれないという課題もあるようです。

● 先程意見がありました。川越の場合は、学校を取り巻く地域組織や会議が複数あるので、コミュニティ・スクールとの棲み分けが課題になりそうな気がします。また、比較的時間に余裕がある方が担い手になるとすると、会議のメンバーが同じになってしまい、複数の会議への出席が負担となってしまうことや、どの会議においても内容が同じようなものになってしまうのではないかと課題もありそうな気がします。

◎ ただ、色々な御意見がありまして、日頃の教育委員さんとの話しの中では、いじめの防止、学力の向上、特に塾に通っていない子どもを公民館を使って学習させることなどは、地域の力を借りてやる意味があるのではないかと意見も出ております。

現在、福原地区の方からコミュニティ・スクールに準じた取組をやってみたい、小中一貫をやっていききたいというような話が出ています。福原地区では、バス通学がありますので、例えば、公民館に地域のボランティアが学習室を設け、小中学生がバスの待ち時間などを利用して学習室で勉強することなども考えられます。また、福原小学校と福原中学校の間に昨年度通路を設け、施設は一体型に近い状況になっていますので、コミュニティ・スクールの研究を小中一貫と併せて行っていききたいと考えており、来年度には、福原地区でモデル校研究をしてみようと準備を始めています。

南古谷地区においては、子どもサポート委員会や地域会議の行事が盛り上がり、コミュニティ・スクールとの活動内容がかなり重なる部分が出てくると思われるので、地区の主体性を考慮すると、コミュニティ・スクールの導入は少し難しいのかなという結論に至っています。

いずれにしても、教師の負担もありますので、他の自治体でやっているという理由だけで効果を考えずにコミュニティ・スクールを導入することだけは、避けたいと思っております。

○ 色々な話が出ましたが、コミュニティ・スクールの形態は様々な形が考えられると思いますので、あまりこうしなければならないという先入観にとらわれる必要はないと思います。学校と地域を結びつけるのが一番の目的ですから、それぞれの地域の事情に応じて、できるところからひとつひとつやっていくのが重要で、その積み重ねが、最終的にコミュニティ・スクールという形になっていくのではないかと気がします。

◎ 次期学習指導要領にも、子どものための学校、地域のための学校、といわれていますので、先程、委員さんもおっしゃったように、高齢者の果たす役割は大きいと思います。住みよい町、生きがいの持てる町川越ということを考えますと、高齢者の方々にも御協力を頂くことは大事なことであると思います。

- 学校運営協議会の運営費についてですが、国からの支援はいくらかあるのですか。
- ◎ 国からの支援はいくらかあるようですが、学校運営協議会の委員の報酬部分は市が負担することになります。
- 昨年、コミュニティ・スクールを実施している埼玉県内の小学校に話を聞く機会がありました。地域やPTAの方など、学校運営に関わる方がウィンウィンの関係をつくって喜びを得られるようなことを目標とし、目指す学校像をきちんと定めてやっているとおっしゃっていました。また、第1に学校を尊重してやっていくこと、委員の委嘱は慎重にした方がいいということ、最終決断は校長であるということもおっしゃっていました。課題は、やはり教職員の負担が大きいということです。ただ、実際にコミュニティ・スクールとして行っていることは、イベントのようなことが多いように感じましたので、川越市では、学力向上をメインとしたコミュニティ・スクールを行った方がいいのかなと思います。
- 色々な御意見を頂き、ありがとうございます。コミュニティ・スクールについては以上とさせていただきます。

(2) 学力向上について

- 続いて、協議事項2の「学力向上」の現状と課題について、教育長から説明をお願いします。

- ◎ 学力向上は喫緊の課題であり、実践を積み重ねながら、ここ何年かけて学力向上を図っていきたくて考えています。昨年度の全国学力・学習状況調査では、中学校3年生はほぼ全国平均に近い状況であったのに対し、小学校6年生は全国平均を下回る状況がここ何年か続いています。

どのような傾向があるのかというと、1つ目は、算数の基礎的な計算能力が弱い傾向が出ています。これまでは、読み・書き・そろばんを徹底させてきたのですが、ここ数年は、主体的に学ぶというややレベルアップした取組に移行してきました。その結果が出たのではないかと捉えています。

2つ目は、算数や数学の問題で、表やグラフから式を導き出すような記述的な問題や、その式を導き出した思考過程を問うような問題が弱いように思います。分かりやすく言うと、かけ算を使えば簡単に答えが出るが、かけ算を使わなくても足し算を使えば同じ答えが出るのではないか。答えは一つなんです、考え方がいくつもあるような問題を子ども達に考えさせるような授業がより必要なのではないかと思います。

3つ目は、国語の読解力が落ちていることです。全国学力調査及び県の学力調査ともに問題文をしっかりと読まないで答えられない問題があり、途中であきらめてしまう子が多いことも課題であるかなと思います。

本市としては、基礎学力が身につけていない子ども達への指導を含め、一人一人の学力や学習意欲を高めていかなければならないと考えています。学力調査の結果を細かく分析し、どの分野が弱いのか強いのかを把握する必要がありますので、教育委員会から各学校に問題の分析をお願いしているところです。

学力調査の結果が思わしくなかった問題に対しては、どのような授業が必要なのか、また、結果がよかった問題に対しては、どのような授業が功を奏したのかということ、を、学力向上委員会とともに分析を進め、各学校において、問題の出題範囲や出題意図について、更に詳細な分析を進めることで、授業改善に取り組んでいます。

今後の対応としては、先進市である東広島市が作成している学力向上プランを参考に、川越市学力向上プランを平成26年度から作っており、毎年度改定をしています。川越市の授業はこういう授業をしようという目標をはっきり示し、子ども達に何を学ぶのかを明確にさせて、主体的な学びや話し合いをする場面を授業に必ず入れる、学習の終わりに必ずまとめをして評価をするなどの授業パターンを定めてやっています。

また、家庭学習の充実を行っていく必要もあります。基礎的な問題や計算問題に力を入れていくため、昨年度から「ときもドリル」という家庭学習用の教材作りに取り組み、今後、「ときもドリル」の量を増やしていく予定です。

さらに、本年度、学級経営の充実を改めて各学校にお願いしています。自尊感情を高める取組などを通じ、学習意欲や生活意欲のある子どもを育てると、話をよく聞く子どもが増えますので学力も伸びてくると思います。今年度は、このような学級経営にも取り組んでいこうと考えています。

● 教育長から現状と課題について説明を頂きました。委員の皆さんから御発言をお願いいたします。

○ パソコン環境や普通教室への空調設備の導入が進むなど、子ども達の教育環境が充実してきましたので、充実した環境の中で子ども達が勉強をしていって欲しいと思います。

毎回、同じことを申し上げますが、テストの平均値というのは、とても判断が難しいと思います。学校に勉強ができる子が多いのかどうかによっても平均点は変わってくると思いますし、先日、ある校長先生から中間の子の成績が上がったために学校全体の平均点も大幅に上がったのではないかという話もお聞きしました。ですから、一概に平均点だけに注目するのではなく、平均点の内訳といいますか、各学校の得点分布などもよく見ていく必要があるのではないかと思います。

各学校でのクラスや個人それぞれの分析がないと、成績はなかなか上がってこないのではないかとともに思います。教育現場で学力調査の結果の分析を深く行い、個々の成績を上げていくことに期待しています。

○ 学力向上については、「小中学生の学力向上プラン」という素晴らしい計画が川越市にあります。学力向上プランを実際に実践し、その結果がどうなったのかについての関心や細部の分析があまり行われていないように感じています。結果をしっかり分析しなければ、次の具体的な問題点や方策は出てこないのです。そこはしっかりとやるべきではないかと思います。私が一番大事だと思っているのは、結果にコミットすべきだということです。特に、学力向上という目的があるのであれば、それがどうだったのかという、結果についてコミットすべきというふうに思っています。

これは何度かお話ししていますが、学力については、例えば塾に通う子どもが多い、少ないなどにより、学校間格差や教育格差があるのは事実だと思います。基礎学力が十分に身につけておらず、塾にも通えない子ども達の学力向上については、やはり、家庭学習をサポートしていかねばならないと思っています。実は、このような子ども達を対象にボランティアで週3回程度なんですが、退職校長先生や公民館等の協力を得て、予習復習をメインとした家庭学習支援を行えるような取組を大東地区で行おうと準備を進めているところです。これはあくまでも、ボランティア団体として、公民館に登録してできないかなというように考えていますが、もし、このような取組により学力向上に結びつく効果が出てくれば、各地区に取組を広げて、市全体の学力を上げられるようなことが大事であるかなと考えています。

また、埼玉県の中で、前回と比べて学力調査の結果が非常に高くなった学校もあるので、その学校の取組をきちんと検証して、どのような取組が学力向上につながったのかの分析を行い、その結果を川越市内で共有し、各学校で積極的に取り入れていくことも必要ではないかなと思っています。

最後に、学力向上には教師の力が絶対的に欠かせないと思っています。専門性において非常に優秀な先生が多くいらっしゃいますが、目標を達成するような熱い情熱や気持ちが全面的に出てくるような先生がさらに増えてきたらいいのではないかなと思っています。保護者対応や事務処理などの間接業務が非常に多くなっており、本来業務である教育に時間を割ける時間が少ないと現場の先生からは聞いておりますので、本来の仕事に携われる時間を増やしてもらえるような環境整備も同時に考えていかねば学力向上の結果には結びつかないのではないかなと思います。

- 大東地区での家庭学習支援は、個人的な動きなのですか、それとも、自治会などの動きなのですか。
- 一生懸命学習支援を行いたいという退職された先生がいらっしゃるので、その方と協力しながらボランティアで動き始めており、市民センターや公民館に協力して頂く形で行えたらなと思っています。最終的には、地域の人を巻き込んでいかないといけないともっています。
- ◎ 今、大東地区の公民館で自主的な形でやって頂きながら、少し広めていきたいと考えています。また、市民センターの併設公民館とも連携しながらやっていかねばと思います。
- 分かりました。他に御意見はありますか。
- 私も色々と市内の学校を見に行った中で、川越市内は広いということもありますが、地域によって学力向上に関する課題は異なっているように感じています。

算数や数学の授業を行っている先生方に話を聞きますと、それぞれの子どものレベルに応じた指導を行いたいと思っても、どうしても平均の子に教えるようなレベルになってしまうとのことでした。30名から40名の子どもをいっぺんに指導することはなかなか難しいと思いますので、先生を増やせるような方法がないか検討して頂き、少人数教育を行うことで、学力向上につながる効果的な授業ができるのではないかと思います。

- 学力向上の最終的な目標は高校進学なのではないかと思います。各小中学校で、平均点がかなり上がったと喜んでいても、最終的に生徒が希望する高校に進学できているのかという、意外にそうでもないこともあります。従って、学力調査の平均点を上げていく取組と希望する高校への進学がつながるようになっていけばいいのではないかと思います。

学校や地域性は様々ですが、学力向上には、基礎学力を定着させることが一番大切であると思います。「ときもドリル」の繰り返し学習や、子ども達に学習させる時間をたくさん取ることで学習の力がついてくると思います。また、全ての小中学校の普通教室にエアコンが整備される予定ですので、夏休みを短くし、授業時数を確保するという事も検討していいのではないかと思います。

- 今、委員さんから話がありましたが、基礎学力を作ることが一番大切だと私も思います。かつて、読解力の向上や創造力を伸ばすことが必要だと言われた時期があったと思うのですが、やはり一番最初に必要なのは、読み・書き・計算だと思います。漢字、計算、英語のテストなどを行い、子ども達同士で競わせるということも必要なのではないかなと思います。
- 基礎知識をもとに色々な体験をする中で、自分の興味や知恵や創造力が生まれていくと思いますので、基礎学力の部分は非常に大事だと思います。
- ◎ 思考力や創造力を伸ばす授業では、基礎力をつけるために考えさせたり、創造させたりする授業展開を行っているところです。今、テストの話が出ましたが、市内のある小学校では、計算や漢字テストをここ10年ほど継続的に行っており、優秀な児童を漢字名人や計算名人として褒めて評価する取組を行っています。このところ、この地区の中学校の学力が市内で非常に高い状況がありますので、教師の負担というものもありますが、これから少し力を入れていきたいと思います。
- 何かあった時に2本足できちんと立てる人間に育てることが教育の原点であると思っております。基礎がないと考える力が出てこないの、とにかく年間を通して多くの問題をこなして基礎を身につけることが大切だと思います。
- 先生が全て問題を作成して配布するのは非常に大変だと思いますので、生徒が問題を作成するなど、先生にあまり負担をかけずにやる方法もあるのではないかと思います。
- 中間テストと期末テストの前に予想問題を作る係があると中学校の生徒から聞いたことがあります。
- 学校の先生も時間がないかもしれませんが、教育方法なども含めて少し意欲を持って自分で研究や研鑽なりをしていくという面も必要なような気がします。
- ◎ 先生に対しては、市での研修や学校訪問での指導などを行っていますが、そこから更に自己研鑽していかなければものにならないので、今後力を入れていくことも一つの指導力の向上策であると思います。

学校の設備に関しましては、エアコンを入れて頂いている所なので、授業日数を増やすことを念頭に検討を進めています。授業日数が増えた部分は、補習的な授業や自学自習など学校の裁量に応じて有効に使っていきたいと考えています。

教員の定員につきましては、学級数に応じて定員が決められていますが、教員の負担軽減、学力向上、教員の質と量も必要ということで、加配ではなく定数を増やすように全国や中核市の教育長会議においても国に要望しています。併せて市でも少しずつ教員を増やせればとも考えています。

- ありがとうございます。他に意見がないようでしたら、学力向上については以上とさせていただきます。短い時間ではありましたが、皆様方から色々な御意見を頂きました。今後の川越市の教育行政の中に生かしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

4 その他

なし

5 閉会